

メディア言説と世論

アメリカにおける原子力報道と世論調査から読み解く

- ❖ 以下の研究論文の紹介を通して、メディア言説と世論の関係について検討します。

Gamson W. A. and A. Modigliani, 1989, "Media Discourse and Public Opinion on Nuclear Power: A Constructionist Approach," *American Journal of Sociology*, 95(1): 1-37.

- ❖ 舞台は 1940 年代～1980 年代のアメリカです。各種の事故（スリーマイル島原発事故等）や政権交代前後の、メディア言説の変化、世論の変化などを扱います。
- ❖ 本論文によれば、メディア言説は、原子力という科学技術を、以下のような観点から、あるいは以下のような主題として、さまざまに論じてきました。本講習会では、こうした、論じられ方の多様性にも注目します。

- ◇ 科学技術や暮らしの進歩
- ◇ エネルギー自給
- ◇ 利益とリスクという両義性
- ◇ 制御不能性
- ◇ 公的説明責任
- ◇ 経済性の欠如
- ◇ 代替エネルギー

*右の絵は、メディア言説の一例です。上記のどの観点から、何を風刺しているのでしょうか？



FIG. 6.—Cartoon by Jeff MacNelly (*Chicago Tribune*, April 10, 1979). (Reprinted by permission of the Tribune Company Syndicates, Inc.)

(p29 より)

日時：11月30日(月) 15:00～15:45

場所：総合図書館ラーニングコモンズ

担当：図書館 TA 志水洋人（人間科学研究科 D2）

※予約不要

問合せ：総合図書館 TA カウンター sogo-lc@library.osaka-u.ac.jp